

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

シノノメサカタザメ

【英名】 bowmouth guitarfish

【学名】 *Rhina ancylostoma*

名前にサメとつきますがエイのなかまで、成長すると全長約3mになる大型種です。茶色の体のところどころに白い水玉模様があり、目の縁や背の中心に硬くとした突起が並んでいます。サメのなかまとエイのなかまを見分けるポイントは鰓孔の場所で、サメは体の横側、エイは体の下側にあります。同じ「大洋の航海者 マグロ」水槽にいるアカシュモクザメと比べると分かりやすいと思います。また、口にはカニなどの硬い殻も噛み砕くことができる丸みをおびた平たい歯があります。水族園では休園日を除く毎日、マグロの「エサの時間」の後にエサを与えています。正確な時間は決まっていますが、エサを食べる様子にも注目してみてください。 （調査係 幅 祥太）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- 新「葛西周辺のカニ」水槽オープン!!
- スポッテッドラットフィッシュの幼魚を展示しました!

なぎさNEWS

- コメツギガニをつかまえてみよう!
- なぎさで探そう! こんな生き物「イワフジツボ」

水族園のもう一つの顔

- 水辺の生き物 お引越し大作戦!
- だれもがのんびり楽しめる水族園へ

TSLP LATEST



Vol.22 No.4 2024

AUGUST

通巻

117

SEA LIFE TOPICS

新「葛西周辺のカニ」水槽オープン!!

5月16日、「葛西周辺のカニ」水槽が新しくオープンしました! 水槽や床の老朽化のために展示を中止していましたが、無事に改修工事を終え、展示を再開することができました。

「葛西周辺のカニ」水槽は、その名のとおり葛西臨海水族園の近くで見ることができるカニのなかまを展示しており、左右2つのパートで構成されています。

左側は一面干潟の水槽で、チゴガニを展示しています。改修前に比べて干潟の面積を大幅に広げたことで、多くのチゴガニを展示することができ、迫力のある展示になりました。ここでは、激しくハサミを上下させる求愛行動のウェービングを見ることができます。右側は水中と草地在一体になった水槽です。水中ではマメコブシガニを見ることができます。干潟のしおだまりなどの浅い水



マメコブシガニ

中にいることが多いカニで、砂に潜っていることもあります。前にも進むことができ、のしと歩く姿にどこか愛嬌があります。ときおり2個体が重なってじっとしていますが、これは交尾の準備をしているところです。

草地にはクロベンケイガニがいます。クロベンケイガニは水の近くの陸地を中心に暮らし、園内に野生の個体が歩いていることもしばしばあります。展示では、土に掘った穴や岩の近くに隠れる様子を見ることができます。

“カニ”と一言で言っても、そのくらし方はさまざまです。ぜひ「葛西周辺のカニ」水槽で、種ごとの違いを観察してみてください。

(飼育展示係 市川 啓介)



新しくなった「葛西周辺のカニ」水槽



ハサミを激しく動かすチゴガニ

スポッテッドラットフィッシュの幼魚を展示しました!

「世界の海」エリアの「深海の生物 トピック水槽」で、スポッテッドラットフィッシュの幼魚を展示しました。スポッテッドラットフィッシュはギンザメのなかまで、横に広げた胸ビレを上下同時に動かし、パタパタとはばたくように泳ぐのが特徴的な魚です。アラスカから南カリフォルニアにかけての東太平洋沿岸部に生息していて、普段は深海にいますが、繁殖期になると浅い海でも見ることができます。

新たに展示した幼魚は、今年の1月に「深海の生物 5」水槽で

ふ化し、バックヤードで育成をしていたもので

す。今回は、育成の方法についてご紹介

します。育成の重要なポイントは、照明と

餌付けです。ふ化したばかりの幼魚は、白

く明るい照明では、水槽内をくるくる回転

するおかしな泳ぎを見せることがあります。そ

こで、初めは赤く薄暗い照明を設置しました。

赤い光は海の深い場所には届かないため、多く

の深海魚は赤い光を感じることができません。スポッ

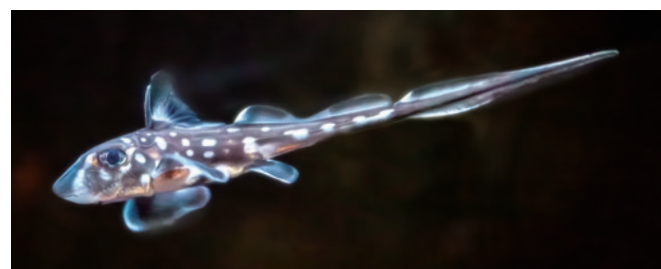
テッドラットフィッシュも同様に、赤い色の照明を使うこ

とで、幼魚は落ち着いて泳いでいました。育成水槽に

慣れてきたら、展示に向けて親と同じ明るい環境に

棒の先の釣り糸に小さくちぎったアマエビを付けて与える

も慣れるよう、少しずつ白く明るい光へと切り替えていきました。もう一つのポイントである餌付けは、とても苦労しました。ふ化したばかりの幼魚は、まいたエサを自ら拾って食べてはくれません。水槽に生きたイサザアミを入れてみましたが、食べている様子は確認できませんでした。そこで、細く透明な棒の先に釣り糸を付け、そこに1~2mmほどの大きさにちぎったアマエビやゴカイを付けて直接与えることにしました。水槽内で泳ぎ回る幼魚の小さな口元にエサをうまく運ぶことはかなり難しく、毎日粘って与え続けた結果、餌付けを始めてから約3週間ようやくエサを食べました。今では上からまいたエサも自ら探して食べるようになり、ふ化したときに約10cmだった全長は、5か月で約20cmになりました。今後もスポッテッドラットフィッシュの幼魚が成長していく様子をお楽しみに! (飼育展示係 松本 あかり)



スポッテッドラットフィッシュの幼魚

なぎさ NEWS



コメツキガニをつかまえてみよう！

一見すると何もいないように見える干潟。じっとしゃがんで、砂の上をよーく見てみましょう。小さなカニがちよこちよこ動いているのが見えるはずです。葛西海浜公園「西なぎさ」では、潮が引いた干潟で、さまざまな種類のカニを見ることができます。なかでもコメツキガニは見つけやすく、簡単につかまえることのできるカニです。

まずは巣穴を探しましょう。干潟の砂っぽいところを見渡してみると、小さな穴がたくさんあいています。穴の周りに小さな砂団子がたくさんあったら、それはコメツキガニの巣穴です。巣穴を見つけたら指を入れ、まっすぐ下に向かって、穴を広げるように掘り進めるのがコツ。カニがいれば、砂とは違う感触のものが指先にあたるのですぐに分かります。カニをつぶしてしまわないように、カニの周りの砂をやさしく掘りながら取り出しましょう。コメツキガニの巣穴の深さは10～20cmくらいと浅いので、穴を見失わずに掘り進めれば、カニが留守でない限り、つかまえられるはずです。この夏は「西なぎさ」でコメツキガニをつかまえてみよう！

(教育普及係 田中 隼人)

穴のまわりに
砂団子！



1

指を入れて掘ると...



2



3

とれた！



4

コメツキガニ！

なぎさ

で探そう！
こんな生き物

見つけやすさ ★★★★★ ☆

サイズ 全長1cm

見つけるコツ

潮が引いたときに、干上がった岩を見てみよう。実は岩にたくさん付いていて、だれでも簡単に見つけられるよ。だけど、イワフジツボは動かないから、遊びに集中していると見落としてしまいがち。踏んづけて足をケガをしてしまわないように、遊ぶときはマリンシューズを履くなどして、足元に注意しようね。

イワフジツボ (イワフジツボ科)

■イワフジツボはこんな生き物

「西なぎさ」でたくさん見られるフジツボのなかまだよ。貝のように見えるけど、実はエビやカニと同じ甲殻類。潮の満ち引きによって、水に浸かったり、干上がった場所でもくらしているよ。イワフジツボは、とっても乾燥に強い生き物だから、数時間干上がってしまっても大丈夫なんだ。潮が引いたときは、体が乾かないように「フタ」を閉じてじっとがまんの時間。潮が満ちたときは、「フタ」を開いて、熊手のような蔓脚でエサを集めて食べるよ。(飼育展示係 川上 七海)



こんな場所にいるよ



干上がって
いるときはじっとして
水に浸かると
蔓脚を出す



なぎさ NEWS って...?

水族館の目の前に広がる海、「西なぎさ」。このページでは、「西なぎさ」で定期的におこなっている生き物調査の報告とともに、なぎさに足を運びたいような生き物情報をお届けします！生き物を見つけに足を運んでみよう！

水族園 のもう一つの顔

水辺の生き物 お引越し大作戦！

2028年にオープンを目指している、水族園のリニューアルが始まりました。それにともない「水辺の自然」エリアは、2024年5月19日をもって終了しました。ここで展示していた生き物は、新しい水族園がオープンするまでバックヤードの水槽で大切に飼育します。「水辺の自然」エリアの中に造った川「流れ」の生き物をつかまえるためには、たくさんの人手が必要です。そこで、5月12日に「水辺の生き物お引越し大作戦！」と題して、江戸川区立臨海小学校4～6年生35名の協力のもと、生き物の引越しイベントを行いました。「流れ」の中は深いところや底に泥がたまっているところなどあり、思うように歩くことができません。初めて手網を使う子どもたちも多く、最初は苦戦しましたが、最後にはカワムツやヨシノボリのなかま、タイコウチやカワリヌマエビのなかまなどたくさんの生き物をつかまえることができました。最後は、生き物をプラケースに入れて観察し、東京の水辺にくらす生き物や外来種、放流の問題などについて学びました。その後、生き物を子どもたちひとりひとりがバックヤードの水槽まで運びました。地元の子どもたちと協力して、水族園リニューアルオープンに向けた第一歩を踏み出すことができました。

(新水族園準備室 中沢 純一)



「流れ」で生き物をつかまえる子どもたち

TSLP LATEST

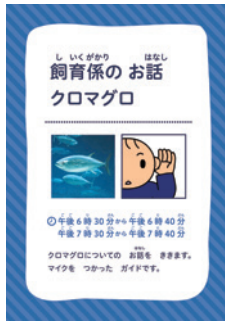
TOKYO SEA LIFE PARK

- 6/12 「深海の生物 3」水槽でハコエビを展示
- 6/30 「のんびり楽しむ動物園水族園 ドリームナイト&イブニング」を実施
- 7/4 「深海の生物トピック水槽」でスポットテッドラットフィッシュの幼魚を展示
- 7/3-5 伊豆大島でライトトラップ採集を実施
- 7/6 幼児向け「進め!海のいきものたち」を実施
- 7/7 小学1・2年生向け「いきものことはじめ」を実施
- 7/11 「水辺の自然の生き物」水槽を設置
- 7/14 海鳥フェスティバルに移動水族館とブースを出展
- 7/20 東京動物園友の会ジュニア会員向けプログラムを実施
- 7/20-21 第53回江戸川区特産金魚まつりに参加
- 7/24 「南極 2」水槽でパールボラシア コルガトウスを展示
- 7/25,29 夏の小学校教員対象セミナーを実施

だれもがのんびり楽しめる水族園へ

「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」は、障がいをもつ子どもとその家族を閉園後の動物園に招待して、楽しいひとときを過ごしてもらうための国際的な活動です。水族園はその趣旨に賛同して、2012年から実施しています。昨年は博物館におけるソーシャルインクルージョンの専門家に視察してもらい、さまざまなアドバイスをうけました。ソーシャルインクルージョンとは、障がいなどにかかわらず、すべての人が共に生きられる社会を目指す考え方です。専門家の話を聞き、思っていたよりも障がいや特性がさまざまであることを知りました。今年はこのアドバイスをもとに、いくつかの改善をおこないました。ひとつは、イベントマップや案内パネルをだれにでもわかりやすいように工夫したことです。これまでは楽しい雰囲気しよう情報が多くなっていたが、デザインをシンプルに文章も短くし、写真や絵文字もつけて情報を補足しました。またバリアフリーや救護室の場所を事前に確認できるようにイベントマップをホームページで公開しました。さらに感覚過敏の方などが落ち着ける場所として、カムダウンスペースを設けました。今回の取り組みを普段から実施できるように、いつでもだれもが楽しめる水族園を目指していきます。

(教育普及係 西村 大樹)



改善した案内パネル



ガイドも話すスピードや言葉づかいを工夫した



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

コメツギガニは、いる場所とコツさえ分かれば、小さなお子さんでも簡単につかまえられるカニです。真夏の干潟は暑すぎますが、潮が引く日であれば秋の「西なぎさ」でもたくさん見られますので、涼しくなってきたらぜひ干潟へ遊びにいってみてはいかがでしょうか。小さなカニですが、自分でつかまえる体験をすれば、うれしさもひとしおのはずです。(田中)

SEA LIFE NEWS 通巻 117

Vol.22 No.4 2024 AUGUST 8月1日発行 (次号は2024年10月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

